

平成27年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (広島県)

— 10 a 当たり予想収量は510kgの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万5,500haで、うち主食用作付見込面積は2万4,000haが見込まれます。
- 2 9月15日現在における水稻の10 a 当たり予想収量は510kgで、作柄表示地帯別にみると、南部は512kg、北部は508kgが見込まれます。
- 3 主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、12万2,400 tが見込まれます。

表1 平成27年産水稻の作付面積及び10 a 当たり予想収量

	作付面積(青刈り面積を含む。)			10 a 当たり 予想収量	参考			
	実数	前年産との比較			主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)		
		①	対差					
		ha	ha	%	kg	ha	t	
広 島 県	25,500	△ 500	98	510	24,000	122,400		
南 部	10,500	△ 300	97	512		
北 部	15,000	△ 200	99	508		

- 注：1 ②10 a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 作柄表示地帯別の③主食用作付見込面積及び④予想収穫量（主食用）は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示しています。
 3 「△」は減少を示します。

- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）です。
- 10 a 当たり予想収量は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものです。したがって、今後の気象条件により10 a 当たり予想収量は変動することがあります。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

【調査結果】

1 作付面積

平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万5,500haで、前年産に比べて500ha（2%）減少しました。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、2万4,000haが見込まれます。

2 作柄概況（9月15日現在）

(1) 出穂最盛期は、平年並みとなりました。

(2) 穂数は、茎数が平年並みで、有効茎歩合が高かったことから、平年に比べてやや多くなりました。

(3) 1穂当たりもみ数は、早生品種の幼穂形成期にあたる6月下旬から7月上旬が低温で日照時間が少なかったことから、平年に比べてやや少なくなりました。

(4) 全もみ数は、1穂当たりもみ数がやや少なかったことから、平年に比べてやや少なくなりました。

(5) 登熟（実入り）は、8月上旬が高温・多照となったものの、8月中旬から9月上旬は曇雨天が続き、最高気温及び日照時間が平年を下回ったため、平年並みが見込まれます。

(6) この結果、10a当たり予想収量は510kgが見込まれます。

表2 平成27年産水稻の作柄概況（9月15日現在）

区分	平年比較			
	穗数の多少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
広島県 南部	やや多い	やや少ない	やや少ない	平年並み
	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
	やや多い	少ない	やや少ない	平年並み

注：本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない・やや不良」が98～95%、「少ない・不良」が94%以下に相当します。

表3 平成27年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

区分	出 穗 期				刈取済面積割合 %	
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期 の比較		
	月 日	月 日	月 日	対平年	対前年	
広 島 県	7.24	8. 9	8.26	並み	並み	29
南 部	7.25	8.20	8.31	2日遅	並み	21
北 部	7.22	8. 1	8.22	1日早	並み	35

注： 出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ 5 %、50%、95%に達した期日です。

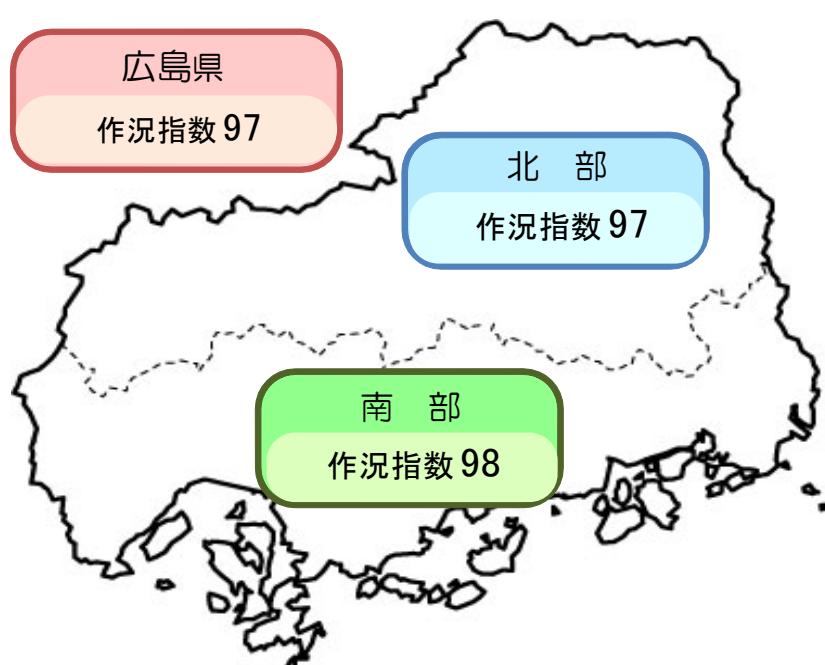
【参考】表4 作況指数【農家等が使用しているふるい目幅で算出】

区分	農家等が使用しているふるい目幅で選別		
	10 a 当たり 予想収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②
	kg	kg	
広 島 県	500	513	97
南 部	501	512	98
北 部	499	513	97

注： 1 農家等が使用しているふるい目幅で選別された①10 a 当たり予想収量、②10 a 当たり平年収量及び③作況指数については、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（広島県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

2 作況指数は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものです。したがって、今後の気象条件により作況指数は変動することがあります。

図 広島県の作柄表示地帯別作況指数（9月15日現在）



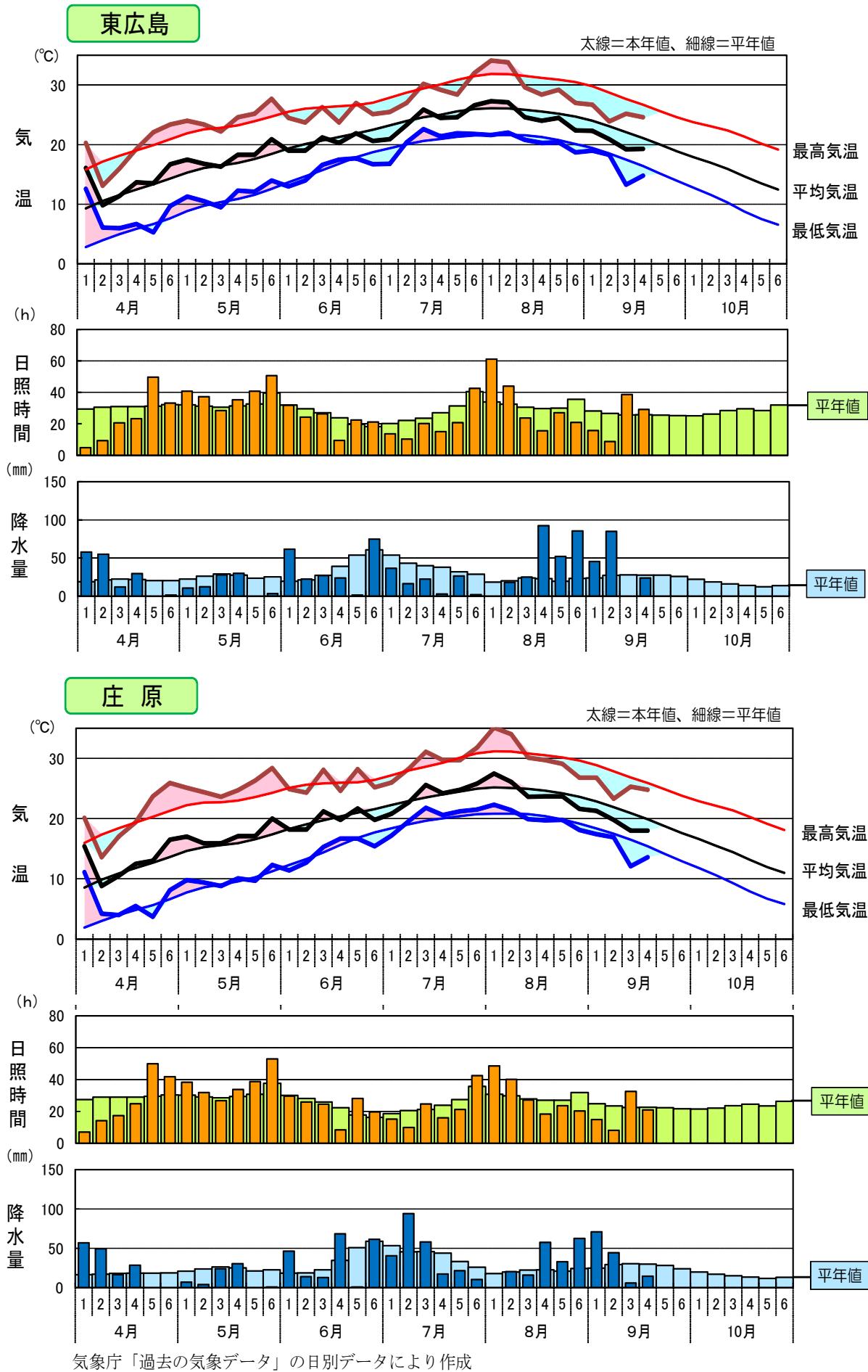
◎累年データ

広島県及び作柄表示地帯別の水稻の年次別推移

区分	作付面積 (青刈り面積 を含む。) 子実用	10a当たり 収量	収穫量 (子実用)	10a当たり 平年収量	作況指数	参考	
						主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
広島県 平成17年産	ha	ha	kg	t	kg	ha	t
18	27,200	27,100	526	142,500	519	101	...
19	27,000	26,900	505	135,800	521	97	...
20	26,900	26,700	519	138,600	523	99	...
21	26,400	26,200	539	141,200	523	103	26,000 140,100
22	26,200	26,000	521	135,500	523	100	25,900 134,900
23	26,500	26,400	511	134,900	523	98	26,000 132,900
24	26,200	26,000	523	136,000	523	100	25,500 133,400
25	26,200	26,000	539	140,100	523	103	25,500 137,400
26	26,200	26,000	520	135,200	523	99	25,500 132,600
						24,800	123,300
南部 平成17年産	ha	ha	kg	t	kg	ha	t
18	12,100	12,000	526	63,300	519	101	...
19	11,900	11,900	501	59,400	522	96	...
20	11,900	11,800	517	61,000	525	98	...
21	11,400	11,300	545	61,600	525	104	...
22	11,200	11,100	524	58,200	525	100	...
23	11,200	11,200	504	56,400	525	96	...
24	11,100	11,000	526	57,900	525	100	...
25	11,000	10,900	538	58,600	525	102	...
26	11,000	10,900	516	56,200	525	98	...
					
北部 平成17年産	ha	ha	kg	t	kg	ha	t
18	15,100	15,000	527	79,200	520	101	...
19	15,100	15,000	509	76,400	521	98	...
20	15,000	14,900	521	77,600	522	100	...
21	15,000	14,900	534	79,600	522	102	...
22	15,000	14,900	519	77,300	522	99	...
23	15,300	15,200	516	78,400	522	99	...
24	15,100	15,000	520	78,000	522	100	...
25	15,200	15,000	540	81,000	522	103	...
26	15,200	15,100	523	79,000	522	100	...
					

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。
- 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。
- 3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示しています。
- 4 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。
- なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（広島県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出します。

【参考】気象グラフ



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻調査の中の作柄概況調査として実施し、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っています。

区分	調査対象都道府県	備考
早期栽培等	徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合が、おおむね3割以上を占める県及び二期作のうちの第一期稻が栽培される沖縄県
早場地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場地帯	早場地域の道県以外の都府県 (岡山県、広島県、山口県、徳島県(普通栽培)、香川県、愛媛県、高知県(普通栽培)等)	

広島県の作柄表示地帯の区分は、次のとおりです。

作柄表示地帯	市町村名
南 部	広島市、吳市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大竹市、東広島市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町
北 部	府中市、三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、世羅町、神石高原町

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：707単位区 巡回・見積り：23市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆調査：220筆 作況基準筆調査：8筆 巡回・見積り：23市町村

4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、職員又は統計調査員による、標本単位区に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

(2) 作柄概況調査

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稻、わら専用稻等を含む。)のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- (2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1 穂当たりもみ数の多少」とは、1 穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1 m²当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。
- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率です。
なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅(中国は1.80mm、四国は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出しています。
- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

統計数値については、下記の方法で四捨五入しています。

原 数	7 衍以上 (100万)	6 衍 (10万)	5 衍 (万)	4 衍 (1,000)	3 衍以下 (100)
四捨五入する衍数 (下から)	3 衍	2 衍	1 衍	四捨五入しない	
例	四捨五入する前 (原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234
	四捨五入した後 (統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230

10 その他

本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」でご覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html>】

【お問合せ先】

中国四国農政局広島支局 統計チーム

082-228-5840(代表) 内線517

電話： 082-228-5847(直通)

FAX : 082-228-5834